

『イフ・フフ・トグ(yeke köke tuy)』¹誌の細目と内容について

About the Contents of [Large Blue Flag]

ウリジバヤル

Uljibayar

要旨

満洲国新京にあったフフ・トグ（青旗）社は、1943年1月、『フフ・トグ（köke tuy）』の姉妹雑誌として、モンゴル語の文芸雑誌である『イフ・フフ・トグ（yeke köke tuy）』誌を創刊した。

『イフ・フフ・トグ』誌は隔月号であり、終戦になる8月まで同じく隔月刊で計算していけば第三巻第四号まで発行したことになる。つまり戦時状況に左右されなかったと考えれば通号16期までの発行は可能であった。二木博史（1998）によれば、東京外国語大学モンゴル研究室に第1号から第5号、第7号、第10号の計7冊が所蔵されている。筆者は上記のほかに第6号、第11号、第12号、第13号を新たに発見した。現在東京都立大学（首都大学東京）図書館に所蔵されている。それからフフバートル（2019）によればケンブリッジ大学に第8号と内田孝（2017）によれば滋賀県立大学に第9号が所蔵されている。

本稿は『イフ・フフ・トグ』誌の第1号と第2号の目次とその内容を要約したものである。この雑誌に翻訳、写真、地図、習字などのデータが多く掲載されている。それから現在ではほとんど使わなくなった文字や語彙などもある。これらのことを考慮し本稿では原文を写したものをそのまま付けておくことにした。

キーワード：フフ・トグ、köke tuy、満洲国、モンゴル語新聞、大青旗

1. はじめに

19世紀末、欧米列強は植民地獲得を始めた。日本もこの時期に日清戦争、日露戦争で獲得した権利をもとに国力強化を目指すようになる。1931年9月満洲事変が勃発し、その後日本政府の影響によって中国東北部に満洲国が建国され、これに伴い内モンゴル東部地域のモンゴル人たちは満洲国の領域に入った。満洲国はモンゴル人に対する啓蒙活動に着手し、首都新京にモンゴル語の印刷所を設立してモンゴル語の新聞や雑誌の発行が開始された。日本との関係を持ち始めてから1945年の終戦までに発行されていたモンゴル語の新聞や雑誌の多くは日本の直接的、間接的な影響を受けていた。この時期に発行されていたモンゴル語の新聞や雑誌には『モンゴル・セトグール』

（蒙古報）1935年、『モンゴル・シネ・セトグール』（蒙古新報）1937年、『フフ・トグ』（青旗）1941年、『イフ・フフ・トグ』（大青旗）1943年等々がある。これらの新聞や雑誌は満洲国の興安総署、蒙政部、青旗社などの機関から刊行されており、記事や写真などについて満洲国及び関東軍の検閲を受けていた。また、1935年ごろから内モンゴルの満洲国領域のモンゴル人居住地を除く、とりわけ中西部地域の蒙疆政権も関東軍の影響を受けるようになる。この両地域で発行されていた新聞や雑誌の内容は異なるところはあるが関東軍の影響を受けていたことは間違いないだろう。

1911年の辛亥革命を機にモンゴルの独立運動が始まる。その後、中華民国と1932年以後は内モンゴル東部が満洲国の領域に入っていく。戦前

1 『yeke köke tuy』『大青旗』

の内モンゴルとモンゴル国は、中華民国、日本、ソビエト連邦との関係における複雑な国際情勢の中で民族の独立と民族の復興のために数多くの試練を乗り越えてきた。この時期にモンゴル国は独立国家としてソビエト連邦と同盟を結んでおり、内モンゴル地域のモンゴル人たちは、徳王を中心としたモンゴル地域の復興と自立を強く求めている。日本との関わりを持つ前は、南京政府の協力を求めている。しかし、南京政府は内モンゴル地域の独立や高度自治を認めなかった。丁度この頃に関東軍との接触があり、その後は関東軍の協力を得ながら内モンゴル地域の独立を図るようになる。このような混乱が続いていた時代において重要なことは、政治や文化面での活動が注目されるようになる。また、モンゴル人のアイデンティティにおける「個」とその関係性が試されるようになる。

2. 『イフ・フフ・トグ (yeke köke tuy)』誌とその性格

満洲国では、モンゴル人の居住地域として興安省が設置された。この地域はモンゴル、中華民国、さらにソビエト連邦との国防の役割を果たしていたと思われる。満洲国はこの地域に対してさまざまな啓蒙活動を行っていた。その政策の一つにモンゴル語の雑誌や新聞の発行を推奨したのである。1937年7月1日、満洲国政府は興安局の管理下にいるモンゴル人を対象に文化機関「蒙古会館」を設置した。この蒙古会館の活動理念は「モンゴル民族自らによる文化発展や民族の能力の向上、仏教の思想および他民族に対するモンゴル人の正しい認識を普及させること」であった。1940年12月、蒙古会館が閉鎖される。1941年1月にモンゴル語出版社フフ・トグ(青旗)社が設立され、フフ・トグ社の社長に菊竹実蔵、編集者に竹内正、モンゴル人20名ぐらい、日本人も数名勤めていた。フフ・トグ社が設立されると、それ以前の『モンゴル・シネ・セトゲール』(蒙古新報)を『フフ・トグ』(青旗)と改名し、1941年1月6日から発行を開始した。創刊号の発刊の辞に「満洲国政府がモンゴル民族の文化習慣の発展を目的にして、蒙民厚生会と蒙民裕生会の協力のもとで青旗社を設立した。モンゴル人の中にはモンゴル文字が全く読めない人もいる。日本語、中国語が読める人から見るとこの青旗新聞は少し物足りないような

気がする。したがって知識の程度はそれほど深くない。この新聞はモンゴル民族の生活と共に発展していくことが一人一人の責任でもある。」と書かれてある。このように青旗社が発行しているモンゴル語の新聞や雑誌は民族の復興と発展が目的であり、そのために若者が率先して努めるべきであると謳っている。

フフ・トグ社は1943年1月15日から『イフ・フフ・トグ』という隔月刊の雑誌を発行した。『イフ・フフ・トグ』誌の創刊号の巻頭詞には「モンゴル人は満洲国の協和民族の一員であり、大東亜共栄圏においても重要な民族である。このような立場であるため精神的、物資的、集団との関わりがあり、個人の短所を直し、長所を伸ばすことを期待する。また、自分の特性、個性を新たな時代に合わせることも大事であり、これにより自分の文化を発展させることができる。この『イフ・フフ・トグ』誌はモンゴル民族の文化と共に前進し、希望に満ちたものになるだろう」と述べている。

創刊号に寄せた祝辞に満洲国興安省のバットマラブダン(badmarabdan)氏は「世界は常に変化している。その変化の中において文字は大切なものである。モンゴル人は誠実な性格であるが文字を知らない人は愚か者になる。建国以来すべてが良い方向に向かっている。『フフ・トグ』紙は国内唯一正式なモンゴル語の新聞である。創刊以来モンゴル文化に大きく貢献してきた。この度発行される『イフ・フフ・トグ』誌は更に発展していきましょう」とモンゴル文化の発展に期待を寄せている。また、厚生会幹事マニバダラ(manibadara)氏は「アメリカ、イギリスを打倒できる日本の力、内外モンゴルを団結できる興安モンゴルの力、生活を改善できる文化の力、民衆を啓蒙できる青旗の力」という短詩を送っている。この他にナムハイジャブ(namahaijab)氏の祝辞には「最近の状況を考えると真実より噂を信じる人たちが増えている。言っていることとやっていることが違う人も増えている。自分のことを直し、みんなの模範になるように努めることが大事である」と述べている。満洲国がモンゴル民族のためにいろいろな政策を実施しているが、その真の目的は何であるか。このような政策を疑問に思っている人も多くいただろう。その政権に対して不信感を抱いていたと思われる。

3. 『イフ・フフ・トグ』誌の目次と内容

大東亜共栄圏の発展やモンゴル文化の発展を目的として発行された『イフ・フフ・トグ』誌は政治評論、戦争の状況、ニュース、科学知識、文学作品、翻訳、笑い話、漫画、挿絵、読者投稿欄、

地図や日本語講座などが掲載されている。

以下『イフ・フフ・トグ』誌の細目と要約した内容である。ローマ字転写は雑誌に掲載されているモンゴル文字によるものである。

創刊号・第一号（1943.1.15）康徳十年一月十五日発行

表紙	γadar čayasu	アルガル（牛糞）を拾う娘
挿絵と地図	jiruy següder	勇敢な日本軍に見習い、北の国境を守ろう！ 日本軍の一年間の功績（東南アジア地図）
写真11枚	següder-tü medegülel	高松宮殿下と溥儀が軍事パレードにて 万里の浪を飛び越える（飛行機） この筆も軍人に寄付しよう（母親と子供の笑顔の写真） 日本騎馬隊の写真 富士山の写真 神社の階段を掃除する小学生 昨年日本のコメの収穫量は例年より二倍多い 満洲も日本に負けてない（稲刈り） 満洲の物売りの娘 羊が増えればモンゴルも発展する（羊の群れ） 英雄たちに感謝しよう（新京の慰霊塔）
巻頭辞	debter-ün ekin-ü üges	今世界中が満洲国を注目している。古い時代を離脱し、新しい時代の発展に努めている。モンゴルは東アジア共栄圏の一民族であり、この「イェフ・フフ・トグ」がモンゴル文化、文学の発展に光を与えることを願う。
祝辞	beleglekü üges	*興安局バッドマラブダン（badmarabdan）、厚生会幹事マニバダラ（manibadara）、ナムハイジャブ（namahaijab）らの祝辞。
発展中の満洲国	kögjijü bayiqu manju ulus	満洲国建国11周年。昨年は盛大に10周年を祝った。満洲族もモンゴル族も一時は栄えていたが、今は衰えている。唯一生きる道は漢民族の主権から退いて独立国家をつくりあげたことである。今日のモンゴルの衰退は漢民族と深く関わりがある。 *サブタイトル 満洲国を守る日本 満洲国の建国について 政策方針 発展の経過 忘れてはいけないこと *写真4枚ある
厚生会の支援金を受けている学生数	amidural-i sayijirayulqu qural-ača dusalamji mönggü ögčü bayiqu suruyčid-un toy-a	厚生会は日本に留学している学生と国内大、中学生ら959名を援助している。日本の専門学校、大学、計15の学校で33名、中高等学校17校で47名。国内15の専門学校と大学で4名、モンゴル専門中学校で815名。
我が満洲国の第二の建設とは何	manju ulus-un quyaduyar bayiyulta kemekü-anü yayun bui?	大東亜建設のため国の法律の制定運用が第二の建設である。今の世の中が戦争の渦にまきこまれている、我慢強く、日々の節約を心懸け、大東亜戦争を早く終わらせることが満洲建国の理念でもある。当事者が日本人であれ、満洲人であれ、モンゴル人であれ冷静な対応をとってください。
東亜の文化と世界の文化	jegün adsiy-a-yin suyul kiged delekei-yin suyul	今東亜の国民が団結し、復興していることが事実である。100年前のアメリカ、イギリスで発展した文化のように、東亜の文化が世界中に広まっている。西ヨーロッパの文化が今衰退しつつあり、これを機に東亜の文化を世界に文化にするため努めよう。
知らせ	medegülkü-anu	この「イェフ・フフ・トグ」雑誌を2000部発行した。代金は前払いで順次発送する。 *他一ヶ所あり。

国際情勢と民衆の生活	ulus-un qoyurundaki bayidal kiged arad olan-u amiduraly-a-yin qolbuydal	中華民国の内乱、ドイツとソビエト、ヨーロッパ各国、アフリカ、アジア各国、アメリカ等で戦争の火花が散っている。アメリカ、イギリスなどは物資がなくなっている。これに比べて満洲は農産物と地下資源が豊富。国防と安泰な生活を送ることがみんなの責務である。
南洋について	nan yan-un sin-e medel	日本は新東亜建設のためアメリカ、イギリスと戦っている。南洋というのは、オランダ領インド、フィリピン・イギリス領マレー、タイ・フランス領インド、大西洋の一部の島々。382万平方kmで、満洲の4倍の広さである。 南洋の気候、物産、農業、工業、商業の順に説明。フィリピンの人たちはご飯より踊りが好き。夜中の12時を過ぎるまで踊り続ける人もいる。若者のプロポーズについて記述、フランス領インドの自然、風俗、歴史について記述がある。 *写真4枚、挿絵1枚、南洋周辺の地図。 大東亜戦争の前の為替1ドル=3圓60銭。
清朝の対モンゴル政策	qin ulus-un mongyol-i jasaysan aray-a	広大な土地を支配していたモンゴルは、明王朝以降その勢力が弱体化していく。そこで清朝がモンゴルにとった政策は、一つ、ラマ教を広く布教したこと。迷信、信仰などを利用して、戦う力を無くす目的であった。一家族から一人は出家する決まりがあった。二つ、モンゴルの土地に旗単位の制度を投入した。旗長を皇帝が指名する。このほかに、一、婚姻政策。モンゴル王侯たちの娘を清朝の王侯たちに嫁がせる。二、モンゴルと漢民族同士の交流を禁じる。三、個人や旗に土地を付与する政策がある。また特別な政策として外モンゴルと内モンゴルで異なる政策をとり入れた。内と外合わせて179旗あった。多くの漢民族がモンゴル高原に入り開墾を始めた。 *写真3枚。 挿絵2枚。
緊急告知	törgen medegdekü-anü	「イェフ・フフ・トグ」誌を購入する人は至急連絡ください。問い合わせが多く、発行部数が少ないので品薄状態である。「イェフ・フフ・トグ」編集室より。 *他一ヶ所。
新年あいさつ	sayin šinelbeü	興安陸軍軍官学校、興安学院、王爺廟師道学校、育成学校、開魯第一高等学校、ハイラル第一高等学校、扎蘭屯国民高等学校、錦州師道学校、大宅畜産学校、一同。 *不明2校ある。
略東亜史(上)	tobčilan bičisen jegün azia-a-in teüke	ここでは、モンゴル民族と漢民族の関係、モンゴル民族と満洲族との交流、今日までの歴をそのまま載せている。第一章、漢民族の起源。第二章、古代インド。第三章、秦と漢王朝。東アジアのモンゴル族について。 *挿絵1枚ある(作者:○の中にモンゴル文字でmuと書いてある)
モンゴルの敵は誰?	mongyol-in daisun yayun-dü bui?	一、前書き。 二、モンゴルはどうして弱体化したの。 1、第一の敵は、善し悪しを区別できない 2、第二の敵は、ラマ教 3、第三の敵は、窮乏 4、第四の敵は、病弱 以上の問題を解決できる四つの対策が書かれている。 三、まとめ。 *作者:興南省、ハストンガラグ(hastungyalay)
アリューシャン列島を攻撃	arosiyang ara-ud-i talqadabai	日本の陸軍と海軍が協力して勝利を収めた。その戦略を恐れているアメリカ国民のこと。また、アリューシャン民族の習慣について簡単に述べてある。 *写真2枚、アリューシャン列島の地図
ドイツ、ソビエト戦争について	düis kiged subiyad-un bayilduyan-u sigümjilel	昨年6月にソビエトとドイツが宣戦し、その後大東亜戦争が勃発して日本、イタリア、ドイツ三国が同盟した。ドイツはまずソビエトを陥落し、それからイギリスに進軍する。今はかなり有利な状況である。ソビエトに協力している外モンゴルが可哀そう。

ソロモン海戦記	surumun dalai-dur bayilduysan temdeglel	昨年8月日本海軍がソロモン海域でイギリス軍との戦いを詳細に記述している。 *日本海軍情報官 *写真4枚 *ソロモン海域の地図
子供との対話	bay-a nôküd-ün qarilčan asayulčiysan	I. 一枚の紙を遠く飛ばす II. 音の高音と低音について III. 笛はどんな音が出るの? 目について
天体について	yirtinčü nügüd-ün toytaysan učir	太陽系の惑星、太陽の働き、役割、日食、月食等について詳しく述べてある。 IV. *挿絵4枚ある。
魚雷について	jiyasun ayungy-a-yin yayiqal	魚雷はハワイ、マレー戦で大いに活躍した。それから魚雷の構造、名称、速度、値段、運送、発射などについて説明。 *写真1枚、挿絵1枚
飲食での注意事項	idesi-yi bolyumjilaqu učir	ご飯を食べないと健康に影響を及ぼすので若者はたくさん食べて、大きくならないといけない。それから体に良いもの、食生活について説明。 *挿絵1枚ある。
時刻と日影	čaj mjče kiged naran-u següder	昔の人は太陽を見て時間を決めていた。夏と冬の日陰も違う。先進国では時間を計る機械を作っている。我がモンゴル民族も遅れを取り戻そう。 *挿絵1枚ある。
詩 翼の讃え	Jigür-ün sayišal	日本の空軍飛行機を讃えた詩。 作者：ムンクバートル (mōngkebaatar) *飛行機の挿絵—ネイラムト作 (nayiramtu)
詩 昭南島をうたう	suu nan duu-yi silüglegsen	昭和17年2月15日日本軍がマレー半島とシンガポール市を占領して昭南島と称し、大東亜共栄圏建設の第一歩を踏んだ。その功績を讃えた詩である。 *挿絵—ネイラムト作 (nayiramtu)
詩 運命	jiyay-a	野草を家畜が食べ、その糞を燃料にし、結果草が灰になっていく。食物連鎖。 *8行の短い詩
奇異な場所熱河	yayiqamsiytai orun rw qu	豊かな自然の中、清朝の寺院が聳え立つ。多くの資源に恵まれ、安定して発展している熱河。 *挿絵 承徳の寺院 作者：○の中にモンゴル文字でmuと書いてある。
蒙古青年の話	mongyol bay-a nasun-u kelelčilge	興安北省ソロン旗の国民学校から学生21名、日本とモンゴルの先生一名が青旗社を訪問した。学生たち取材した内容を掲載している。 *集合写真1枚、挿絵1枚。
家畜の改良	kerun tejiğebüri-yi sayijirayulqu	清朝の政策がモンゴル民族を生活できない環境に陥れた。今、日本が我々を援助しているから家畜を増やして、大東亜共栄圏建設のために努め、モンゴル民族の復興に力を合わせよう。 *挿絵 砂漠の中水運ぶ牛車 作者：mu
病気の治療法	tomu ebedčin-i jasaqu ary-a	今まで風邪ひいたら多く人はアスピリンという薬を飲んでた。よくなるとラマのところに行っている。これからは、病院に行き注射を打つことを薦めする。医科大の学生らが悪病と闘い、人々を救うときだ。 *挿絵 モンゴルゲル 作者：mu
母になるために	yayakibasü keüked-ün eke bolumui	若い母たちに幼児を元気に育つ方法を教えている。海外の人たちに習うべきである。
原稿募集	eke bičig-i elsükü-anü	評論、随筆、感想文、小説、詩、笑い話、漫画、写真、絵などのスタイルで書かれたもの。提出先：新京特別市東三馬路23号青旗社内大青旗編輯室

子供の物語 助け合う心	setkil qamtudaysan maytayal	自然の描写から始まり、モンゴルの若者が病気で動けないとき日本の若者が代わりに羊の世話をしてくれた。日本の若者が豆の収穫に遅れたときモンゴルの若者が手伝った話。日本とモンゴルの人たちが力を合わせて大東亜のために努めようと謳っている。 *挿絵2枚
笑い話	iniyedüm-tei üges	笑い話5話ある。
漫画	iniyedüm-tei jiruy	P87に 「アメリカ軍の勇ましさ」 「無謀な爆破」 「アメリカの海軍」 「穏やかな海」 p193に 「猫に魚を取られた犬」 p193の漫画の作者：ハラバラス (harabars)
ソロモン海戦争とアメリカの情報	surumun dalai-yin bayilduyan kiged amirik-a-yin medegülügsen čimege	日本海軍はアメリカ海軍に圧勝した。アメリカの敗因は、一、アメリカ軍の戦力は弱い。二、指揮官は指導力が欠けている。三、アメリカの陸軍と海軍は意気投合できない。四、日本の戦術は優れている。
卵を見分ける方法	dakiy-a-yin ömdege-yi ilyaqu ary-a	古い卵を揺らすと音が出るなど五つの方法を教えている。
妊婦が注意すべきこと	sayi könggejikü ekener-tür sonusqay-a	出産後食事管理をよくすること 衛生管理をしっかりすることなど。
警戒心を緩むな	bolyumjilal ügei dadyal-yi čikerleltei	我々は新聞、雑誌、画報などから多くの情報を得ているが、今の緊迫した状況の中、それらを軽く言ってはいけない。人々の生活を不安に陥れこともあり、スパイが情報収集のためにいろんな手段を使うこともあるので注意すること。 *挿絵1枚
文章を書こう	bičig sastir ölemji jokiyaqu tusa	一日何もしないで一生を終えることはよくない、自分の名を歴史に残すため、多く書き残したほうがよい。
奇聞	yekede sonusyaltai baysi	一、昨年日本の人口は170万人増えた。我々も増やそう。二、最近ドイツでタバコの配給を始めている。男性は一日三本、女性は二日で一本。三、ジャワ島は人口は5000万人。
健康に関する知識	tengkelegün-i qamayalaqu yerü-yin medel	風邪をひく、便秘、睡眠時間、運動など健康に関する情報をクイズ式で説明している。
人間と家畜の衛生について	kümün mal-un eregül qamayalal-un učir	個人の健康は、公衆衛生によるもの。家畜の管理、環境を改善することがいちばん重要なことである。
冬は我慢強く、夏に繁栄させよう	ebül qasirabaču jun badaramui	寒い冬が去り、暖かく春が訪れると同じく、今の時期にしっかりと準備しておけば、我が国は間違いなく繁栄する。 *挿絵 作者：西省ボルチョール (bulčilayu)
大青旗の四季	yeke köke tuy-un dörben ularil	春夏秋冬は単なる自然の移り変わりではなく、人類にも深く関わっている。春になり目を覚まして、「イェフ・フフ・トグ」の種を撒き散らそう。
土と兵隊	sirui kiged čirig	火野葦平作 1938年 小説 訳：マニジャブ 挿絵4枚、ネイラムト作 (nayiramtu)
H21というスパイ	H21 kemekü tangnayul	「マタハリ」という女性がフランスの海軍、陸軍の権力者から秘密情報を得て、ドイツのスパイとして活動していた。後にスパイ活動の容疑で逮捕され処刑された。 *実話である。 挿絵4枚、ネイラムト作 (nayiramtu) 「イェフ・フフ・トグ」編集室編集
険しい森林	bartayan-tai oi siyui	ニコライ・バイコフ『バイコフの森』から三篇の翻訳を掲載している。 挿絵4枚、ネイラムト作 (nayiramtu)

チンギス・ハーン	Činggis qayan	チンギス・ハーンの成長に伴い、数多くの困難を乗り越えたことを描き、彼の賢明さを讃えている。(未) *マニジャブ訳 長編小説
編集後記	jokiyaysan tegüsgel-ün üges	大東亜共栄圏建設は着実に進んでいる。建国10周年を迎えた。また「イエフ・フフ・トグ」を通してモンゴル文化を発展させよう。

第二号 (1943.3.15) 康徳十年三月十五日発行

表紙	yurban sar-a-yin oytarayui	挿絵：三月の空 ネイラムト作 (nayiramtu) *子供が空を飛ぶ飛行機を見あげている。
国民訓話	ulus arad-un suryal	一、天照大神を信仰し、天皇陛下に忠誠を誓う。二、国家の安定に尽くすべき。三、近隣と友好に接し、国家の復興に努める。四、規則正しく、法律を守る。五、力を合わせ大東亜共栄圏のために努める。
撃ちてじ止まむ		3月10日日本陸軍記念日を迎えて。 *陸軍省の判子。 第38回。 タイトル日本語のまま。
モンゴル軍と民衆	mongyol-un cirig arad	北白川宮殿下張家口郊外の蒙、漢地区にて。 *フカサワ ショウゾウ作
回顧写真10枚	següder-ün medegülel	大同元年3月建国式典の国旗掲揚。 国务院建物 康徳8年、皇帝が扎蘭屯視察 建国10周年、皇帝官邸前の徳王 視察中の皇帝に敬礼する北省の老人たち 興安大砲隊 国軍に声援を贈る民衆 内モンゴル騎馬隊 パラシュート隊 写真2枚
巻頭詞	debter-ün ekin-ü üges	イギリスはアヘンを漢民族に売り、アメリカは南洋の石油を奪っている。日本はこれらのことを阻止するために戦争を始めた。
回顧建国	ulus bayiyuluysan-i sanayaljın yaruyusan anu	建国以前の内モンゴル東部地域の軍事情勢、ボヤンマンドフ氏らの活動と大同元年2月に興安省を設立し、モンゴル軍を満洲国軍に編成された経緯など。 *挿絵 作者：mu
真贋運命	ünen mayad jabsiyan buyan	ヨーロッパの教養書 苦難の元は人にある 苦難は幸福の元 時事と人類の苦しみ *挿絵4枚 作者：mu
物の稀少はチャンスでもある	yayum-a-yin jüül čuqaytur kümün-ü buyan jabsiyan nemegdemüi	天皇陛下に忠実な日本軍は次々と勝利している。この苦難を乗り越えれば幸せは訪れる。今は物資が少ないが、我々に物の重要さを教えてくれた。 *サブタイトル 我慢強く、非常期に前進しよう。
シンガポール市戦記	šingkabuur qutan-dur bayilduysan temdeglel	陸軍情報官が前線の軍隊とシンガポールの戦いに参加し、九死に一生を得た戦場実話である。 *写真7枚 地図1枚
アメリカとイギリスの実情	amiriq-a inggilis-un ünen bayidal	イギリスの文化は世界一といわれているが、それは全部表面的なものであり、陰で人に知られたくないことをしている。アメリカは漢民族より貧しい生活をしている。などの批判が多い。 *写真2枚 挿絵2枚
恐怖の中にあるソビエトの状況	berkesiyejü aqu subiyad-un bayidal	ドイツとソビエトが交戦してからソビエトの物資が日々足りなくなっている。スターリンは外モンゴルに物資を届けるよう圧力をかけている。 *サブタイトル 外モンゴルを奴隷のように使うスターリン 写真2枚 スターリンとチョイバルサン (主席) 挿絵2枚

『イフ・フフ・トグ(yeke köke tuy)』誌の細目と内容について

アジア史 (中)	adsiy-a-yin teüke [dumdadu]	清王朝、ヨーロッパ、イギリス領インド、ヨーロッパ諸国、アメリカのアジア侵略、アヘン戦争、清朝滅亡の原因、日清戦争、日露戦争など。
現在のモンゴルの状況	edüge-yin mongyol-un bayidal	清朝末期モンゴル草原に多くの漢族が入り、開墾を始めた。モンゴル高原の面積、地理、産物、貿易、人口、信仰などの説明がある。 *現在のモンゴル人が知っておくこと。
農産物の用途	tariyalang-un yarulta-yin asiş kereglel	大豆、トウモロコシは満洲国の重要な農産物である。大豆の成分、栄養、産地とトウモロコシから麺を作るなど説明。 *大豆とトウモロコシ関連の図表ある。
天体について(下)	yirtinçü nügüd-ün angqan doytaysan uçir	月の軌道、火星、木星、土星、天王星、海王星について説明。 *挿絵 3枚
乳児について	nilq-a keüked-ün jüi-yin suryal	赤ちゃんが生まれるときの注意事項、知識について詳細に説明。 *子供の写真 1枚 挿絵 2枚
詩 12月8日	arban quyar sar-a-yin naiman-u edür	日本軍の勇敢な姿を讃えた詩。 *1941年12月8日真珠湾攻撃
詩 日本の陸軍	nibbun-u qayurai čirig	陸軍の苦難を乗り越え、民衆に幸福をもたらす行為は讃えるべし。 *写真 2枚
詩 種	ür-e	一粒の種も貴重である。 *挿絵 ネイラムト作 (nayiramtu)
船の説明	el-e jüil-ün ongyuča-yin tayilburi	航空母艦、巡洋艦、駆逐艦、戦闘艦、潜水艦、潜水母艦、敷設艦、掃海艦、特務艦、給糧艦などの説明。 *写真 3枚 挿絵各船 8枚 海軍省許可済第671号とある。
若者と農村の暮らし	tariyalaqu ayil-dur qandubasu jökimui	昔は田舎の大自然の中健康に暮らしていたが、今になると皆都市に憧れていくが何もしない者が増えている。田舎に戻って農作業をやったほうが身のためになる。 *挿絵 1枚
蒙古地方の心霊話	mongyol-un čitkür kemekü kelelčige	一つは、昔のある夏のバイカル湖畔に一家全員が疫病で亡くなり、家畜を全部失ってしまった。ある日二人組の男がこの町に宿り、夜いろんな不思議なものと遭遇した話。もう一つは、興安北省のバラグ地方である夜、馬に乗って走っていた人がお婆ちゃんに声かけられて一緒に乗って走っていたら髑髏になっていた話。 *挿絵 2枚
ダライラマ14世が法座に就く	dalai lama-yin geyikegsen uçir	13世ダライラマの遺言通り青海省で6歳になる14世ダライラマに拝謁。 *挿絵 1枚
国家の根本は人口である	kümün ama bolbasu ulus-un ündüsü	人口は国家の生命に関わる大きな問題である。モンゴルの人口は現在350万人いるが、もっと増やすべきである。東京は700万人いるのでその半分しかいない。 *挿絵 2枚
チチハルという名称の由来	čičiqar kemekü ner-e-yin egüsgel	昔はブフ(相撲)と呼んでいた。清朝になってからチチハルと呼ぶようになった。モンゴル語のキジガール(辺境)の訛り。
家庭衛生	ger tingkim-ün eregül-i qamayalaqu	風邪の予防、鼻づまり、医者がないとき自分で治す方法の説明。 *挿絵 6枚
笑い話	iniyedemtei üges	雷、針、雪、時計、果物の皮五つの話がある。 *挿絵 4枚
風刺画	iniyedemtei jiruy	肉を奪った犬 *漫画 7マス ハラバラス作 (harbars)
敵をよく見分ける	daisun-u sanay-a-bar üjegdün	敵を知れば百戦百勝。
悪夢	mayu jegüden	漫画 猫とネズミ

固有名詞のモンゴル語表記	mongyol neres-i dügümčilegsen ary-a	各旗、学校、役所の蒙、漢、省略称などの固有名詞の一覧表。
日蒙会話講座	nibbun mongyol kelelčikü üge-yi tayilburilaqu	日本語学習のための講座。蒙日文と解釈。
戦友	bayilduyan-u nöbür	バドとジャバという二人は戦争に参加していて、バドが戦死し、ジャバはバドの遺言通り勇敢に戦う話である。 *翻訳：マニジャブ 挿絵3枚 ネイラムト作 (nayiramtu)
小さいな駅の雀の籠	bay-a örtege-yin bičiqan biljuuqai-yin sayša	駅に売店で働いているミチコとミドリ姉妹がある人から雀をもらう。それが駅の名物となる。一年後に戦争で負傷してきて病院にいる持ち主に雀を返す。 *挿絵5枚 作者：mu 小説
春を告げる鳥	qabur-i medegülkü sibayu	*宇野浩二作 『春を告げる鳥』 1927年 訳：江竜龍太郎 天理外国語学校の教官と書かれてある。 挿絵3枚 ネイラムト作 (nayiramtu)
南洋の青年	emön-e dalai in jalayus	南洋諸島の島々の原住民と日本軍の友好関係を書いた旅行記。 *挿絵3枚 ネイラムト作 (nayiramtu)
別れ	yabuysan	両親の反対を押し切って、自ら国軍に参加する若者話。 *作者 エルデムトゥグス 小説 挿絵4枚 ネイラムト作 (nayiramtu)
国軍の威力	ulus-un čirig-ün sür jibqulang	以下の三つのテーマで書かれた実話。 一、上官を尊敬する兵士と兵士を愛す上官たち 二、大東亜戦争に参加する 三、親の教えに従う、優秀な若き兵士 *編集者からこのような記事を多く投稿し、多くの人に伝えるよう願うとある。 挿絵3枚
森林の中の軍隊	oi siqui-yin dotur-a yabuqu čirig-ud	大東亜戦争以来、陸軍のマレー半島、シンガポールを占領に至るまでの苦難、業績を讃えた記事。 *挿絵2枚 作者：mu 写真2枚 ジャングルにいる兵士と戦車
麗しき娘	sayipan ükin	*パウル・フォン・ハイゼ作 長編小説 タチン (tačin) 訳 挿絵5枚 ネイラムト作 (nayiramtu)
編集後記	neyilegülün jokiyaysan qoyinaki temdeglel	大東亜戦争の最中、我々が幸せに暮らしていることを思い、南洋諸島にいる日本軍に感謝しよう。 チンギス・ハーンの物語が掲載中止。
挿絵	čirig kiged čaydayči-d ur talarqay-a	短文と挿絵4編 ネイラムト作 (nayiramtu)
裏表紙	qabar bolbai, bey-e maqabud-iyen bolbasurayuluy-a	挿絵 春になった、体を鍛えよう

4. 『イフ・フフ・トグ』誌の原文目次

戦前に発行されていたモンゴル語の刊行物の共通点として誤字、脱字はよく見られる。それから名詞などの統一がなかったことや翻訳するときに参考になっている資料、或いは翻訳者の能力によってそれぞれ異なった訳になっただろう。例えば、日本語の資料を参考していた場合は、日本語がわかる人は日本語読みに、漢字がわかる人は漢字読みにして、さらに漢字の意味をそのまま訳す人も

いた。

以下は『イフ・フフ・トグ』誌の目次をそのまま写したものである。現在の表記と異なるところを比較できると思う。※の後に書いてあるのは目次に載ってない記事である。

5.おわりに

日本の大陸進出、満洲国の建国、蒙疆政権これらが終戦によってすべてが幻となった。しかし、この間のモンゴル語の定期刊行物はモンゴル社会、文化、言語などにおいて大きな役割を果たしてきた。また、この時期に海外留学、特に日本への留学は満洲国の政策によって行われていた。日本に留学していたモンゴル人学生たちはモンゴル語の新聞や雑誌の発行や外国の情報、文化習慣、文学作品など多方面の著作物を満洲国及び徳王をはじめとする蒙疆政府が発行していた雑誌や新聞に投稿していた。青旗社が発行していた新聞や雑誌は関東軍の検閲を受けていたので自由な投稿はできなかったと思われる。宣伝の必要性があるからモンゴル語の新聞や雑誌が発行していたと思われる。もちろん一方的な宣伝ではなく、日本や聖戦の状況を伝えつつモンゴルの文化の維持と発展を目的にしていた。

この『イフ・フフ・トグ』誌のモンゴル文字は現在使っているモンゴル文字と大きな違いはないが助詞の使い方、名詞の表記などの異なるところは存在する。例えば、アメリカ国の表記について当時は (amiriq-a)、現在は (amwrika) と書いており、ドイツについて (düis)、現在は (gwrman) というふうに表記している。もちろん当時も現在も参考言語によって変わっていたと思われる。

今回は「イフ・フフ・トグ」誌の第一号と第二号の目次とその内容について簡単に要約したものである。そして所蔵先がわたった第八号、第九号を入手し、引き続きまとめていきたいと考えている。

参考文献

- ・二木博史「蒙疆政権時代のモンゴル語定期刊行物について」『日本モンゴル学会紀要』第31号p17～43、2001年
- ・黄文雄『満洲国は日本の植民地ではなかった』ワック株式会社 2005年
- ・広川佐保「満洲国のモンゴル語定期刊行物の系譜とその発展」『環日本海研究年報』第14号p104～126 2007年
- ・ウリジバヤル『「フフ・トグ」(青旗)紙とは何だったか』—「新京」で刊行されたモンゴル語新聞の紹介』『中国東北文化研究の広場』第2号 2009年
- ・宮脇淳子『世界史のなかの満洲帝国と日本』ワック株式会社 2010年
- ・満蒙研究プロジェクト編集委員会『満蒙の新しい地平線』桜美林大学北東アジア総合研究 2010年
- ・ウリジバヤル『「満洲国」時代のモンゴル人作家の創作④ 短編小説 別れ』植民地文化研究 2010年
- ・ウリジバヤル『「イフ・フフ・トグ」誌について』新潟産業大学経済学部紀要第42号 2013年
- ・内田孝「内モンゴル近現代文学研究からみた『青旗(フフ・トグ)』紙:モンゴル語定期刊行物の研究現況に言及しつつ」『OUFCブックレット』(「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ(青旗)』のデジタル化と公開の可能性」大阪大学中国文化フォーラム). 2015年
- ・兵軍『日本の影響下でのモンゴル語定期刊行物について』東洋大学大学院紀要2016年
- ・フフバートル『ケンブリッジ大学所蔵満洲国発行モンゴル語雑誌「大青旗」』学苑 資料紹介特殊号 第949号 2019年
- ・『イフ・フフ・トグ』(大青旗) 第1号～第7号、第10号～第13号 青旗社1943～1945年
- ・『フフ・トグ』(青旗) 第119号 1943年11月13日
- ・口頭発表 内田孝「滋賀県立大学図書情報センターが所蔵するモンゴル関連資料の紹介-精松文庫と陳文庫を中心に-」日本モンゴル学会2017年度秋季大会 2017年
- ・産経新聞『モンゴル出版物千点一堂に 大阪外大教授所蔵 教え子に司馬遼太郎 戦時中雑誌も 滋賀県立大』<https://www.sankei.com/west/news/2020.11.24> 閲覧